

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H00086

研究課題名(和文) 三大都市圏における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する計量的研究

研究課題名(英文) Study on the processes of disparity expansion and their social consequences in Japanese three metropolitan areas

研究代表者

橋本 健二 (Hashimoto, Kenji)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：40192695

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、社会地区分析と階級・階層研究の方法を組み合わせることを通じて、現代日本における格差拡大の進行過程とその社会的帰結を明らかにしようとするものである。研究の結果、以下の諸点が明らかとなった。(1)三大都市圏では中心都市の中心部に上層階級、周辺部に下層階級が集中するというセグリゲーションが存在し、この傾向は中心部のジェントリフィケーションによって強化されている。(2)三大都市圏には共通の階級間格差の構造があり、アンダークラスを中心とする貧困の集積が認められる。(3)居住地の地域類型や階層構成は、個人の属性から独立に、社会意識、健康状態、社会的ニーズの充足状況に影響している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、共通する課題を取り上げながらも、研究者レベルでの協力関係が少なかった都市社会学研究者と階級・階層研究研究者の共同研究を通じて、社会地区分析と質問紙調査データによる階級・階層分析を組み合わせ、階級・階層構造と都市空間構造を同時に考慮しながら、格差拡大の進行過程とその社会的帰結を明らかにする研究方法を確立したところに学術的意義がある。また、大都市部における格差拡大の進行がセグリゲーションの強化をともなっており、このことが貧困層の多い地域において、健康状態の悪化や社会的ニーズの充足困難をもたらすことを明らかにし、さらに地域間対立が生じる可能性を示したところに社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study attempts to clarify the process of increasing disparities and their social consequences in contemporary Japan by using a combination of methods of social district analysis and class and stratification research. As a result of the research, the following points were clarified. (1) In the three metropolitan areas of Japan, there is a segregation in which the upper classes are concentrated in the centre of the city centres and the lower classes in the peripheral areas, and this tendency is reinforced by the gentrification of the city centres. (2) There is a common structure of class inequality in the three metropolitan areas, with a concentration of poverty, mainly in the underclass. (3) The regional types of residence and class composition affect social attitudes, health conditions and the fulfilment of social needs, independently of individual attributes.

研究分野：社会学

キーワード：社会地区分析 階級・階層 都市分極化 健康格差 貧困 アンダークラス 階層意識 社会的ニーズ

## 1. 研究開始当初の背景

日本では1980年代以降、急速に経済的・社会的格差が拡大してきたが、この格差拡大は、個人間・世帯間の、また階級・社会階層間の格差拡大とともに、地域間格差の拡大を伴っていた。地域間格差の拡大は、一部地域での産業の衰退、高齢者比率が極端に高い地域の出現、貧困層の一部地域への集中などと関連しており、今後、多くの社会問題を発生させると考えられる。こうした課題について研究するためには、格差に関する研究を中心に担ってきた階級・階層研究者と、都市空間について研究する都市社会学者の共同研究が必要と考えられる。このため「大都市部における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する計量的研究」(15H01970、2015-2018年度)においては東京圏を対象に社会地区分析と質問紙調査を実施し、この課題にアプローチし、一定の成果を得た。しかし東京圏は、その歴史的背景や特殊な地形、そして首都所在地という性格上、その結論を一般化できるかどうか、不明の点が残った。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、社会学において格差研究の中心を担ってきた階級・社会階層研究の方法と、都市社会学の社会地区分析の方法を接合することにより、格差拡大の進行過程を階級・社会階層構造と都市の空間構造の両面から解明するとともに、これが大都市部に生み出しつつある諸問題の構造を明らかにし、これを通じて問題解決の基礎を提供することである。研究対象は、東京圏、名古屋圏、京阪神圏の三大都市圏である。

より具体的には、以下の2点を研究の目的とした。

第1に大都市部において格差拡大が進行し、アンダークラスをはじめとする貧困層が増大した社会的メカニズムを解明する。一般的には格差拡大は、グローバリゼーションとサービス経済化の進行などのマクロなメカニズムによって引き起こされる。しかし都市化が進行した現代日本において、大多数の人々は都市の住民であり、都市の空間構造に組み込まれた存在である。諸階級・諸階層は都市空間のなかで不均質に分布しており、そこでは階級・階層構造が空間的に表現されている。このため格差拡大と貧困層の増大は、都市分極化による都市内部での地域間格差の拡大、富裕地域のいっそうの富裕化、貧困地域のいっそうの貧困化、新たな貧困地域の形成などを伴うことになる。こうした変化が生じるメカニズムを解明することが必要である。

第2に、こうして空間構造が変容した大都市の各地域類型に居住する、それぞれの階級・社会階層が直面する問題の構造を明らかにする。それぞれの階級・社会階層は、それぞれに異なる生活上の問題に直面するが、そのあり方は居住する地域の地域類型によっても規定される。なぜなら各地域類型には、蓄積された社会的共通資本や社会関係資本の量に違いがあり、また近隣住民の階級・社会階層構成や所得水準の違いそのものが、広い意味での生活環境として、行政サービスの質や量、地域に形成される社会集団、諸個人の生活様式や意識に影響するからである。このように、それぞれに特定の階級・階層に所属しながら、各地域類型に居住する住民が、どのような困難に直面し、どのような生活上のニーズを有しているかを明らかにすることが必要である。

## 3. 研究の方法

本研究の方法上の最大の特徴は、都市社会学で行なわれてきた社会-地区分析と、質問紙調査による階級・階層研究の方法を接合することである。

社会地区分析は都市空間構造を明らかにすることを通じて、都市分極化の進行や貧困地域の形成などの現状を明らかにすることができるが、地域別統計を用いるため、そこに居住する諸個人を直接に分析対象とすることができない。これに対して階級・社会階層研究は、ランダムサンプリングによる個人単位の質問紙調査データを用いるため、居住地の地域類型が諸個人にもたらす影響を明らかにすることができない。いま求められるのは、両者を統合したアプローチである。

具体的には、以下のような方法を用いた。

(1)市区町村単位、小地域単位、地域メッシュ単位の統計の分析から、各種指標の空間的分布を明らかにするとともに、各種の地域類型を抽出し、三大都市圏の空間構造とその変化を明らかにする。

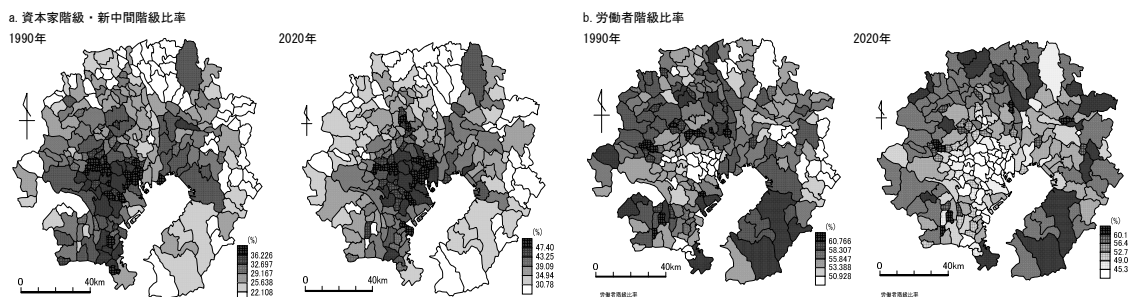
(2)三大都市圏を対象とする質問紙調査を行なう。設問は、職業、従業上の地位、学歴、収入、資産、各種の階層意識・社会意識など階級・階層研究で一般的に用いられてきたも

のに加えて、居住する地域に対する評価、居住する地域における社会的ニーズの充足状況などを追加した。また居住地を小地域単位（町）で尋ねて変数化し、(1)の結果をもとに、各サンプルのデータに居住地の特性を市区町村単位、小地域単位の変数として追加し、本人の回答と居住地の特性を同時に考慮した分析を行なうことができるようにした。調査にあたっては、各地域について十分なサンプル数を確保するためインターネット調査の方法を採用し、最終的には4万3820人から有効回答を得た。

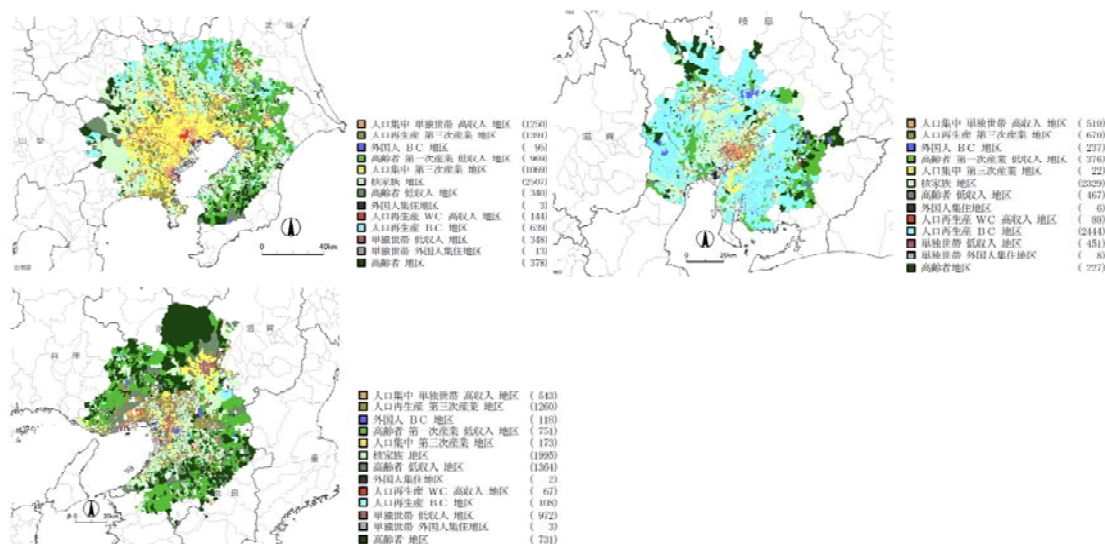
#### 4. 研究成果

以下の諸点が明らかとなった。

(1)階級構成に注目して1990年から2020年の30年間における三大都市圏の空間構造の変化をみると、資本家階級と新中間階級の都心部への集中傾向が強化され、労働者階級は周辺部に分散し、また都心部の旧中間階級が大幅に減少するという、共通の趨勢を認めることができる。その意味でこれら都市圏では、いずれも都市分極化が進行しているといえる。ただし、この傾向がもっとも顕著なのは東京圏であり、名古屋圏ではいくぶん限定的で、また京阪神圏では都心が3つに分かれていることから、やや複雑な様相を呈している。インターネット調査から得られた居住歴についてのデータからは、このような変化が、都心部での旧中間階級の絶対的減少、労働者階級の流入の減少し、新中間階級の流入の増加によって、つまりジェントリフィケーションの進行によって引き起こされたことが明らかとなった。



(2)地域メッシュ単位のクラスター分析によって地域類型を抽出した結果、三大都市圏には共通する12の地域類型が認められた。各地域類型の占める比率は都市圏によって異なっており、名古屋圏ではブルーカラー人口再生産地区、京阪神圏では非労働力低収入高齢者地区の比率が高く、東京圏は両者の中間だった。



(3)階級間格差について検討したところ、三大都市圏には個人年収、世帯年収、資産総額においてほぼ共通の階級間格差の構造が認められた。経済指標以外からみると、各階級には、配偶関係、階層意識、子ども時代の経験と教育経験、健康状態・生活困難と社会関係資本など、さまざまな側面において、大きな階級格差が存在している。とくにアンダークラス（パート主婦以外の非正規労働者階級）は、貧困で、結婚して安定した家族を形成することが困難で、子ども時代に学校からの排除と職業への移行の困難を経験し、健康上の多くの問題と生活困難を抱え、社会的にも孤立しがちな状態にある。新型コロナ・パンデミックの前後の変化をみると、アンダークラスと旧中間階級で著しい所得の減少がみら

れ、結果的に階級間格差が拡大したことが明らかとなった。

新型コロナ・パンデミックの前後における仕事上の変化

	時勤務 間日数 が減つた や労働	時勤務 間日数 が増えた や労働	休業 した 先(自 営の 含む)	倒場 合先 を(自 営の 含む)	に解 雇や 雇 い止 め	な務 形在 態宅 が勤 変更 に勤	収入 が減 った	収入 が増 えた	転 職 し た	副 業 を 始 め た	か と く に 変 化 は な
資本家階級	25.3%	7.9%	7.6%	0.9%	0.9%	15.1%	21.6%	3.0%	3.0%	3.6%	42.7%
新中間階級	16.3%	8.7%	3.5%	0.2%	0.2%	27.7%	13.2%	3.2%	3.2%	1.9%	44.7%
労働者階級	25.5%	7.1%	7.1%	0.5%	0.5%	15.8%	23.0%	3.0%	3.0%	2.7%	43.5%
アンダークラス	33.9%	6.2%	11.1%	0.8%	0.8%	10.9%	27.5%	6.8%	6.8%	4.5%	39.5%
パート主婦	30.5%	6.0%	8.7%	0.7%	0.7%	7.5%	19.6%	4.2%	4.2%	1.9%	49.1%
旧中間階級	31.6%	3.4%	11.2%	0.5%	0.5%	7.7%	41.3%	2.8%	2.8%	4.8%	37.4%
無職	20.9%	7.4%	6.2%	1.7%	1.7%	13.7%	20.0%	4.1%	4.1%	1.4%	43.6%
専業主婦	28.6%	4.7%	8.1%	1.0%	1.0%	12.0%	16.7%	3.4%	3.4%	0.9%	45.3%

(4) 社会的ニーズは、階層的位置の高い人ほど充足されやすい傾向があるが、居住地の性質によっても大きく規定されていた。具体的には、ホワイトカラー比率が高く、生活程度の高い人の多い地域に住んでいれば、階層的位置の高低にかかわらず、社会的ニーズは充足されやすい。したがって格差拡大と都市分極化は、単に経済的な格差を生み出すだけでなく、相互に補強しあいながら、社会的ニーズの充足状況の格差を生み出しているといえる。同様のことは主観的ウェルビーイングについてもあてはまり、居住地域の所得水準が高いほど、幸福度と生活満足度が高くなる傾向がある。

(5) 居住地の地域類型は、個人の属性から独立に、主観的健康に影響している。具体的には、都心の単独世帯比率が高い地域、人口再生産が行なわれていて、第三次産業就業者またはホワイトカラー比率の高い地域では、主観的健康が良好になる傾向がある。この事実は上の(4)とあわせて、近隣効果の存在を示すものである。

(6) 大都市圏中心部に流入した中上層階級＝ジェントリファイヤーは、従来から居住している中上層階級に比べて学歴が高く、年齢を統制すれば所得・資産ともに多く、社会意識の上では新自由主義的な傾向が強い。またジェントリフィケーションの進行が顕著な地域の住民は、所属階級にかかわらず共通に、階層意識が高く、新自由主義的な傾向を示すという特徴がある。このことは、ジェントリフィケーションの進行する地域とそれ以外の地域の住民の間で利害の対立と政治的対立が起きやすいことを示唆している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 丹辺宣彦・Gi Jung Song	4. 巻 44
2. 論文標題 トヨタ従業員の働きかた（下） 2022年豊田調査からみる仕事の満足度と規定要因	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 名古屋大学社会学論集	6. 最初と最後の頁 53,66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹辺宣彦	4. 巻 36
2. 論文標題 大都市公共圏における社会関係資本の機能と階層性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 地域社会学会年報	6. 最初と最後の頁 117,131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石田光規	4. 巻 106(5)
2. 論文標題 現代社会の孤独・孤立とつながりづくり	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 月刊福祉	6. 最初と最後の頁 46,49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田光規	4. 巻 16
2. 論文標題 場の喪失と場の再生 都市における孤立現象への対応	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 都市社会研究	6. 最初と最後の頁 1,14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 浅川 達人	4. 巻 38
2. 論文標題 社会地図で描き出す三大都市圏の社会空間構造	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 75～97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11218/ojjams.38.75	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Higuchi Naoto	4. 巻 36
2. 論文標題 Logics of Strategic Racism in the Anti-Hate Speech Law Era: Analyzing the Discourse Against Zainichi Koreans in Japanese Right-Wing TV Programs	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Seoul Journal of Korean Studies	6. 最初と最後の頁 443～464
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/seo.2023.a916926	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片瀬一男	4. 巻 115
2. 論文標題 非正規雇用とメンタルヘルス	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 16,20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本健二	4. 巻 514
2. 論文標題 「階級社会」日本の危機：格差縮小・貧困解消の課題で野党の集結を	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 社会保障	6. 最初と最後の頁 24,21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹辺宣彦	4. 巻 14
2. 論文標題 都市空間と二つの「動的密度」 分業と都市度の関係：工業都市圏の地域特性をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海社会学年報	6. 最初と最後の頁 66-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平原幸輝・橋本健二・浅川達人・妻木進吾	4. 巻 40
2. 論文標題 三大都市圏における所得階層の空間分布	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本都市社会学会年報	6. 最初と最後の頁 76-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妻木進吾	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 学生アルバイトの実態と労働者としての権利 2018年龍谷大学生アルバイト調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 龍谷大学経営学会論集	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本健二	4. 巻 50
2. 論文標題 「新しい資本主義」における「階級政治」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 POSSE	6. 最初と最後の頁 40-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本健二	4. 巻 22
2. 論文標題 酒と居酒屋からみた日本の戦後	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代風俗研究	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本健二	4. 巻 307
2. 論文標題 都市空間のなかの居酒屋	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史地理学	6. 最初と最後の頁 121-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田光規	4. 巻 2021年7月号
2. 論文標題 都市に沈みゆく声なき孤立者たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 32,39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 コン・アラン	4. 巻 72巻1号
2. 論文標題 世代間所得移動と階層帰属意識の趨勢分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 1,18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4057/jsr.72.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 コン・アラン	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 世代内所得移動が階層帰属意識に及ぼす影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間科学研究	6. 最初と最後の頁 225,235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aram Kwon	4. 巻 2021
2. 論文標題 The Impact of Intergenerational Mobility on Well?being in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Social Indicators Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11205-005-2257-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹辺宣彦・三田泰雅・高娜	4. 巻 42
2. 論文標題 四日市市における就労・移動・定住化とまちづくり(下) 住民の生活環境と集合行為をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋大学社会学論集	6. 最初と最後の頁 87,105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹辺宣彦・三田泰雅・高娜	4. 巻 13
2. 論文標題 開発・公害の経験と産業都市の生活環境 三重県四日市市の地域イメージをめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東海社会学会年報	6. 最初と最後の頁 103,117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田尚子	4. 巻 5
2. 論文標題 桜田勝徳と漁村をめぐる旅：網子の発見	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新社会学研究	6. 最初と最後の頁 35,54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田尚子	4. 巻 14
2. 論文標題 近代東京の貧民窟 四谷鮫河橋 と残飯業	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 理論と動態	6. 最初と最後の頁 116,131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本健二	4. 巻 26
2. 論文標題 アンダークラスの出現と新しい階級社会 (著者による日本語訳、原題は韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本批評	6. 最初と最後の頁 158,197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kenji Hashimoto	4. 巻 47
2. 論文標題 Transformation of the class structure in contemporary Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Japanese Political Economy	6. 最初と最後の頁 1,27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/2329194X.2021.1943685	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本健二	4. 巻 282
2. 論文標題 新型コロナ禍と現代日本の階級社会	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学的社会主義	6. 最初と最後の頁 14,22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本健二	4. 巻 2021年9月号
2. 論文標題 加速する格差とアンダークラスの危機	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 156,163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口直人	4. 巻 62
2. 論文標題 日本の排外主義と嫌韓・嫌中感情 (研究代表者による日本語訳、原題は韓国語)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 成均チャイナブリーフ (研究代表者による日本語訳、原題は韓国語)	6. 最初と最後の頁 108,114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口直人	4. 巻 -
2. 論文標題 日本の排外主義と嫌中・嫌韓：その違いと共通点 (研究代表者による日本語訳、原題は韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings for the Annual Conference of Association for the Study of Contemporary China	6. 最初と最後の頁 1,14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口直人	4. 巻 -
2. 論文標題 日本ネット右翼の生活世界：誰が2015年韓日慰安婦合意に反対するのか（研究代表者による日本語訳、原題は韓国語）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジアの社会的承認と排除：その物的土台と深層構造	6. 最初と最後の頁 90,95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平原幸輝	4. 巻 34巻2号
2. 論文標題 地域類型別にみた社会階層の構成の変化 首都圏を対象とした社会地区分析を踏まえて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間科学研究	6. 最初と最後の頁 45,57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平原幸輝	4. 巻 19
2. 論文標題 都心における人口増加と社会経済的状況 三大都市圏の比較を通じて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西学院大学先端社会研究所紀要	6. 最初と最後の頁 17,31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Kenji	4. 巻 30
2. 論文標題 Time Difference Gentrification as a Bloodless Revolution : Class Structure and Spatial Polarization in the Tokyo Metropolitan Area after the 1980s	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Japanese Sociology	6. 最初と最後の頁 23 ~ 63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ijjs.12122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永吉希久子・松谷満・樋口直人	4. 巻 35-1
2. 論文標題 オンライン調査による大標本データ収集	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 145-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹辺宣彦・三田泰雅・高娜	4. 巻 41
2. 論文標題 四日市市における就労・移動とまちづくり(上)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋大学社会学論集	6. 最初と最後の頁 37-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹辺宣彦・三田泰雅・高娜	4. 巻 13
2. 論文標題 開発・公害の経験と産業都市の生活環境	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東海社会学会年報	6. 最初と最後の頁 近刊
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平原幸輝	4. 巻 33
2. 論文標題 首都圏における所得水準と経済的格差の空間構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報社会学論集	6. 最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平原幸輝	4. 巻 33-2, 34-1
2. 論文標題 首都圏における格差拡大の要因とその帰結	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間科学研究	6. 最初と最後の頁 237-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武田尚子	4. 巻 14
2. 論文標題 関係人口と地域資源研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域活性研究	6. 最初と最後の頁 225-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田光規	4. 巻 40
2. 論文標題 孤独な富裕層	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IPSS Working Paper Series (J)	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計60件 (うち招待講演 12件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 丹辺宣彦
2. 発表標題 先進産業都市の仕事と暮らし：2022年豊田質問紙調査データから(1) 自動車産業就業者の働きかた
3. 学会等名 東海社会学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tatsuto Asakawa
2. 発表標題 The Spatial Distribution of Bottom Workers
3. 学会等名 ISA World Congress of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tatsuto Asakawa
2. 発表標題 Factor Analysis of Health Disparities in Japan's Three Metropolises
3. 学会等名 Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅川達人、平原幸輝、妻木進吾
2. 発表標題 都市社会空間構造における変動分析
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aram Kwon
2. 発表標題 Does the Relationship between Social Class and Social Consciousness Vary across Urban Areas? Findings of an Analysis of Three Major Japanese Metropolises
3. 学会等名 Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aram Kwon
2. 発表標題 Urban poverty in Japan: Class structure, residential characteristics, and social consequences
3. 学会等名 Association for Asian Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Aram Kwon
2. 発表標題 Does the discrepancy between educational aspiration and educational attainment affect life satisfaction? : Evidence from Japan
3. 学会等名 Association for Asian Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aram Kwon, Ryota Mugiyama, Takahiro Tabuchi
2. 発表標題 Downward Mobility and Loneliness: Consequences of Intergenerational Educational Mobility in Japan
3. 学会等名 International Sociological Association ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naoto Higuchi
2. 発表標題 Logics of Strategic Racism in the Anti-Hate Speech Law Era: Analyzing the Discourse of Japan's Right-Wing TV Program
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 外国人参政権の未来を原点に戻って考える
3. 学会等名 在日大韓国民団人権擁護委員会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 ペルーからのデカセギ30年史をめぐる社会学的分析 (2)職業と労働市場の推移
3. 学会等名 関東社会学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 ダイバーシティは不平等を推進するのか、是正するのか：移民研究の立場から
3. 学会等名 社会学系コンソーシアムシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 オートエスノグラフィーとは何か
3. 学会等名 シンポジウム「オートエスノグラフィーから見る移民の物語：日本を生きる10人の語り」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 日本のネイティビズム：排外主義は「若者」にとってどのように遠く、どのように近いのか
3. 学会等名 同志社大学（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 移民とナショナリズムをめぐる日本的構図：移民受入れをめぐる3つの論理の変遷
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 排外主義者の論理 3つのヘイト裁判記録を読み解く
3. 学会等名 韓国日本思想史学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 「遠くて遠い国」と「近くて遠い国」の間 日本のオリエンタリズム、ポストコロニアリズムと排外主義
3. 学会等名 日仏会館シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naoto Higuchi
2. 発表標題 Developmentalism vs Clientelism: Which Can Better Explain Japan's Immigration Policy?
3. 学会等名 IMISCOE Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 開発主義vsクライエントリズム - どちらが日本の移民政策を説明できるのか
3. 学会等名 関東社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 移民政策をめぐる連立方程式 特定技能に至る経路から考える
3. 学会等名 シンポジウム「検証・日本の移民政策」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅川達人
2. 発表標題 社会地図と質問紙調査の統合
3. 学会等名 関東社会学会例会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅川達人
2. 発表標題 個人、家族、地域における調整過程とライフコース(2)：地域社会における調整過程
3. 学会等名 日本発達心理学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅川達人
2. 発表標題 社会地図で描き出す三大都市圏の社会空間構造
3. 学会等名 数理社会学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅川達人、平原幸輝、妻木進吾
2. 発表標題 三大都市圏の社会空間構造：都市空間の比較社会学をめざして
3. 学会等名 韓国地域社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代箱根の開発：開発資本と近代技術の導入
3. 学会等名 地域社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 長野県小谷村における観光地域づくりと担い手層
3. 学会等名 地域活性研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 六大都市の連携と社会事業の展開
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代名古屋における土地区画整理事業と商工業地域の形成
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 コン・アラン
2. 発表標題 階層的地位・階層帰属意識・階層移動が政治意識に与える影響
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aram Kwon
2. 発表標題 Does the discrepancy between educational aspiration and educational attainment affect life satisfaction? : Evidence from Japan
3. 学会等名 Association for Asian Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 妻木進吾
2. 発表標題 ポスト特措法時代の被差別部落の実態と転出入
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本健二
2. 発表標題 三大都市圏における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究 (1)研究の概要と三大都市圏の階級間格差
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平原幸輝
2. 発表標題 三大都市圏における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究 (2)三大都市圏の空間構造と各地域類型の特徴
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅川 達人
2. 発表標題 三大都市圏における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究 (3)健康格差の要因分析：社会地区分析と質問紙調査の統合
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤 香
2. 発表標題 三大都市圏における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究 (4)三大都市圏のアンダークラスに関する基礎的分析
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片瀬 一男
2. 発表標題 三大都市圏における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究 (5)アンダ クラスのメンタルヘルスの規定因：非正規の基幹労働化
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丹辺 宣彦
2. 発表標題 三大都市圏における格差拡大の進行過程とその社会的帰結に関する研究 (6)大都市公共圏の階層性と社会関係資本の機能
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本健二
2. 発表標題 現代日本における階級構造の変貌とコロナ・パンデミック
3. 学会等名 日本社会学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本健二
2. 発表標題 都市空間のなかの居酒屋
3. 学会等名 歴史地理学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aram Kwon
2. 発表標題 Impact of Intergenerational Class Mobility on Subjective Social Status in Japan
3. 学会等名 international sociological association RC28（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅川達人・平原幸輝・妻木進吾
2. 発表標題 三大都市圏の社会空間構造(1)人口、家族、住宅に関する分析
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 Naoko Takeda
2. 発表標題 Urban Climates and Flood Defense: Local Community and Risk Management in Japanese Cities
3. 学会等名 International Conference on Urban Studies on Zoom, organised by London Center for Interdisciplinary Research (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代都市の産業化と河川管理 - 王子区の工業化と水害 -
3. 学会等名 地域社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代イギリス都市における住宅政策の展開 - ヨークの不良住宅対策から公的住宅供給へのプロセス -
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 フィールド調査の系譜：桜田勝徳 漁村研究 と 網子
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 妻木進吾・平畑幸輝・浅川達人
2. 発表標題 三大都市圏の社会空間構造(3)労働、職業、産業
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 日本の中国認識とその問題点(研究代表者による日本語訳、原題は韓国語)
3. 学会等名 韓国現代中國學會(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoto Higuchi
2. 発表標題 Why Does Japan's Immigration Policy Change so Slowly? Incrementalism under the Long-term Conservative Rule, 2nd Conference of East Asian Sociological Association, 2021.10.30
3. 学会等名 East Asian Sociological Association(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoto Higuchi
2. 発表標題 Japanese Far-right Movements and Hate Speech
3. 学会等名 International Association of Constitutional Law(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoto Higuchi
2. 発表標題 From 'Blood Ties' to Neoliberal Meritocracy: What's New about the New Migration Regime?
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naoto Higuchi
2. 発表標題 The Life World of Japan's Alt-right: Who are against the Japan-Korea Agreement on 'Comfort Women' in 2015
3. 学会等名 International Conference on Social Inclusion and Exclusion in East Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樋口直人
2. 発表標題 何が移民政策を促進するのか 2019年入管法における産業間の処遇格差から考える
3. 学会等名 関東社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平原幸輝・橋本健二・浅川達人・妻木進吾
2. 発表標題 三大都市圏の社会空間構造(2)所得階層に関する分析
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平原幸輝
2. 発表標題 三大都市圏における格差の空間構造
3. 学会等名 関東社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 戦前期の条件不良地域開発と外来資本
3. 学会等名 地域社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 オンライン地域資源研究による質的調査の可能性
3. 学会等名 地域活性学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武田尚子
2. 発表標題 近代 遷移地帯 から現代 再開発地区 への移行
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丹辺宣彦・三田泰雅
2. 発表標題 ポスト産業化時代の産業都市
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丹辺宣彦・高娜
2. 発表標題 産業都市四日市の都市形成と現在
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平原幸輝
2. 発表標題 首都圏における格差の空間構造
3. 学会等名 関東社会学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計25件

1. 著者名 Tatsuto Asakawa (contributing author)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Brill Academic Pub	5. 総ページ数 316
3. 書名 The Bottom Worker in East Asia: Composition and Transformation under Neoliberal Globalization	

1. 著者名 ハイメ・タカハシ, エドゥアルド・アサト, 樋口直人, 小波津ホセ, オチャンテ, 村井・ロサ・メルセデス, カルロス・オチャンテ, 稲葉奈々子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 インパクト出版会	5. 総ページ数 352
3. 書名 ペルーから日本へのデカセギ30年史	

1. 著者名 Naoto Higuchi (contributing author)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Edward Elgar	5. 総ページ数 232
3. 書名 Migration and Nationalism: Theoretical and Empirical Perspectives	

1. 著者名 樋口直人 (分担執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 298
3. 書名 フランスのイスラーム / 日本のイスラーム	

1. 著者名 佐藤香 (分担執筆)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 パネル調査にみる子どもの成長	

1. 著者名 橋本健二 (分担執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 都市とモビリティーズ	

1. 著者名 橋本健二	4. 発行年 2024年
2. 出版社 PHP研究所	5. 総ページ数 296
3. 書名 女性の階級	

1. 著者名 橋本健二	4. 発行年 2023年
2. 出版社 聯經出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 低層世代	

1. 著者名 橋本健二	4. 発行年 2024年
2. 出版社 中国科学技術出版社	5. 総ページ数 255
3. 書名 新下層：日本の社会階層与貧困遺伝	

1. 著者名 樋口 直人、稲葉 奈々子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 232
3. 書名 ニューカマーの世代交代	

1. 著者名 武田 尚子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 358
3. 書名 箱根の開発と渋沢栄一	

1. 著者名 Nibe, Nobuhiko, Mari Nakamura, Hiroshi Yamaguchi (eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer Nature	5. 総ページ数 235
3. 書名 Toyota City in Transition	

1. 著者名 橋本健二	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中国科学技術出版社	5. 総ページ数 272
3. 書名 中流崩壊	



1. 著者名 ヤンジェソプ・キムサンイル・ミンスンヒョン・キムスンジュン・ソンスヨン・饗庭伸・浅川達人・長野基・片桐由紀子・大澤昭彦・鄭一止・小根山裕之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ソウル研究院	5. 総ページ数 472
3. 書名 ソウルが見た東京、東京が見たソウル:2000年代ソウル・東京の都市空間政策の比較(分担執筆による日本語訳、原題は韓国語)	

1. 著者名 浅川達人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 194
3. 書名 都市を観る 社会地図で可視化した都市社会の構造	

1. 著者名 石田光規	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 「人それぞれ」がさみしい	

1. 著者名 片瀬一男・神林博史・坪谷透	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 314
3. 書名 健康格差の社会学:社会的決定因と帰結	

1. 著者名 橋本健二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 334
3. 書名 東京23区×格差と階級	

1. 著者名 橋本健二	4. 発行年 2022年
2. 出版社 上海訳文出版社	5. 総ページ数 230
3. 書名 新型日本階級社会	

1. 著者名 片瀬一男（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 若者の性の現在地	

1. 著者名 妻木進吾（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 550
3. 書名 現代の部落問題（講座 近現代日本の部落問題 3）	

1. 著者名 Naoto Higuchi, Sachi Takaya and Nanako Inaba(contributing authors)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 224
3. 書名 Migration Governance in Asia: A Multi-level Analysis	

1. 著者名 橋本健二、浅川達人(編著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 鹿島出版会	5. 総ページ数 304
3. 書名 格差社会と都市空間	

1. 著者名 橋本健二	4. 発行年 2020年
2. 出版社 毎日新聞出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 アンダークラス2030	

1. 著者名 Kazunari Sakai and Noemi Lanna (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 203
3. 書名 Migration and Governance	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	樋口 直人  (Higuchi Naoto)  (00314831)	早稲田大学・人間科学学術院・教授    (32689)	
研究分担者	佐藤 香  (Sato Kaoru)  (10313355)	東京大学・社会科学研究所・教授    (12601)	
研究分担者	片瀬 一男  (Katase Kazuo)  (30161061)	東北学院大学・情報学部・教授    (31302)	
研究分担者	武田 尚子  (Takeda Naoko)  (30339527)	早稲田大学・人間科学学術院・教授    (32689)	
研究分担者	浅川 達人  (Tatsuto Asakawa)  (40270665)	早稲田大学・人間科学学術院・教授    (32689)	
研究分担者	石田 光規  (Mitsunori Ishida)  (60453495)	早稲田大学・文学学術院・教授    (32689)	
研究分担者	妻木 進吾  (Tsumaki Shingo)  (60514883)	龍谷大学・経営学部・准教授    (34316)	
研究分担者	丹辺 宣彦  (Norihiko Nibe)  (90212125)	名古屋大学・環境学研究科・教授    (13901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	津田 好美  (Tsuda Yoshimi)  (90336058)	早稲田大学・文学学術院・准教授    (32689)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協 力 者	コン アラン  (Kwon Aram)	大阪経済大学・経済学部・専任講師   (34404)	
研究 協 力 者	平原 幸輝  (Hirahara Yuki)	早稲田大学・人間科学学術院・助教   (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関